



## II. ワーキンググループ報告

ネパールにおける JOCV 隊員の活動分析作業は各自続行中で、5月16日(日)まとめに入り、9月の第40回日本熱帯医学会・第14回日本国際保健医療学会合同大会の演題として提出する予定である。

かねてより進めていた「国際看護学入門(仮)」については、諸事情により出版が遅れ、8月下旬出版予定となった。

ワーキンググループには会員ならどなたでも参加できます。新たなテーマで研究を開始したいという方、研究参加にご興味のある方は事務局までご連絡下さい。

## III. 第12回国際看護研究会報告

(1999.3.6 国際協力事業団青年海外協力隊事務局広尾訓練研修センターにて開催)

第12回国際看護研究会は、金沢大学の森絹子教授(国際保健学博士)をお迎えし、アジアが抱えるエイズ問題について、講演をして頂きました。

### <抄録>タイとミャンマーにおけるエイズの現状と対策

金沢大学医学部保健学科地域看護学 大森 絹子

現在エイズ患者の95%は開発途上国に集中し、先進国では減少している。1970年代後半からサブサハラ以南、北米で始まったエイズ感染は、21世紀にはアジアが一番多くなると言われている。これは陸続きであること、貧困と切り離せないことによる。リスク行動をもった人の調査では、インド、ミャンマー、タイ、カンボジアでの感染率が高い。対策を立てている国は少なく、NGOが細々で行っているのが現状である。

アジアでは薬物中毒者に感染者が多く、ミャンマーでの調査では70~80%である。数年前から、女性、特に性産業従事者、普通の女性に感染者が増えてきた。性産業に従事する女性から顧客である男性に、その男性のパートナーである女性にとエイズは広がっていった。また現在エイズ孤児(感染している乳幼児、親をエイズで亡くした未感染の孤児)の養育が問題となってきている。アメリカなどの先進国においては、母子感染した児が10代になっても生存している例は多く見られるようになっているが、タイでは5歳以上まで生きられる者は20%前後である。貧困であるほど生存率は低い。

ミャンマーでは医療職でもきちんと注射器の滅菌をしない人が多いし、患者は注射をしてもらおうと安心する傾向にあり、エイズを含むすべての病気が予防できると信じていた。

講演者は、正規職員として働き始めた1982年以前よりタイと関わってきた。タイは政府、NGOともプライマリ・ヘルスケアに積極的に取り組んでいる。1984年にサンフランシスコで暮らしていたゲイの男性が初の感染者であった。薬物中毒者、性産業従事者、売血、性病クリニック来院者などリスクグループを検査したところ、高率の感染率であり、1年経たずに倍増したため、政府は外国の機関と一緒に急いで取り組んだ。性産業の従事は家族を養う必要性という経済問題と関わっているため、止めることはできない。そこでこれを容認しながら、自分の身を守るようにとプログラムに3ヶ月毎の血液検査、

健康診断、コンドームの支給を計画し、コンドームの装着を義務づけた。しかし、この対策から漏れるのが子ども売春であり、この子どもとタイとミャンマーの国境沿いに住む少数民族である。タイでの啓発活動はタイ語で行われたが、これら少数民族はほとんど小学校教育も受けていないため、言葉が理解できなかった。またコンドームを知らない者にその使用を指導するのは難しい。

これら少数民族に目を向けたのがNGOであるが、何十という言語があり、性行動も民族によって異なるため難しい。プログラム展開のための外国人が住んで、リーダーとなる人材を発掘し、地域に根差したプログラムを立案して訓練するまで数年かかる。

ミャンマーは何か活動をすると政治活動とみられる恐れがあるため、3～4年前までは対策に消極的であった。1988年に薬物中毒者が初の感染者となり、現在薬物中毒者の3分の2は感染者と言われる。売春婦は1988年の調査で4年前の5倍の20%となっている。ヘロイン中毒者の多くはいつ死んでもいいと思っているため、指導が難しく、食事がなくともヘロインを買う。多くの種類の少数民族がいるが、ここの子どもの夢はきれいな服を着ることで、実はこれは売春婦になることである。少女売春の更正に焦点をあてたNGOは子どもを夜間学校に通わせ、自立手段を身につけさせているが、収入が10倍の売春を喜んでする子どももいる。一般女性は夫から感染するが、手に職を持たせ、自立させる試みをしている。一つの機関だけではいろいろな問題に取り組めないの、連絡をとりあっている。政府の人間はエリート意識が強く、エイズや少数民族への差別感があり、また、そこに暮らしている人材を見つけるというような、住民レベルでの仕事ができない。

タイ北部の少数民族は大きく7つに分けられ、それぞれの文化で異なる考えをもっている。たとえば、結婚前に何人もと性交渉をもった方がいいと考える民族、逆に結婚するまでは駄目と考える民族がいる。それぞれにあった教育が必要であり、視覚で訴える啓発活動をする際にもその民族の衣装を着た絵でなければ受け入れられない。

講演者は2年前まで感染者のコーディネーター、コンサルトとして活動していたが、その時に組み込まれていなかったのがエイズ孤児の問題であった。そこで学校をつくり、ここでは子どもらしい生活をさせること、自分たちの民族を大切にすることを目指して教育している。将来のリーダーを育てていきたいと考えている。 (文責：森)

#### IV. 第13回国際看護研究会のお知らせ

国立国際医療センターは各国の保健医療プロジェクトに、国際協力局所属の看護職を派遣しています。第13回国際看護研究会では、同局看護職による保健医療協力についてご紹介頂くとともに、チョーライ病院プロジェクトでの看護活動についてお話し頂きます。

日時：1999年6月19日（土） 13：00～15：00

会場：国際協力事業団青年海外協力隊事務局広尾訓練研修センター 2階

講師：岩下晴美氏（国立国際医療センター国際協力局）

テーマ：ベトナム チョーライ病院プロジェクトでの看護活動

参加費：会員 無料

非会員 500円

#### V. 第14回国際看護研究会（学術集会）のお知らせ

国際看護に関する研究をさらに深めるために、本年度も第14回国際看護研究会を学術集会とし、お互いの知見を交換する機会としたいと思います。広く演題を募集いたしますので、ふるってご応募下さい。多くの方のお申し込みをお待ちしております。

日時：1999年9月18日（土） 9：00～17：00

会場：国際協力事業団青年海外協力隊広尾訓練研修センター

プログラム：基調講演

一般講演（口演）

参加費：会員 1000円（学生 500円）

非会員 2000円（学生 1000円）

演題募集要領：

1. 応募資格；国際看護に関心を持つ看護職、または看護学生
2. 発表形式；口演：発表時間 15分（質疑応答を含む）。スライド、OHPを使用できます。
3. 演題発表（抄録）の申し込み；テーマは国際看護に関する研究または報告とします。申込書と抄録1部を、下記、三重県立看護大学 柳澤理子へ、7月30日（金）（必着）までにご送付下さい。

詳しくは「第14回国際看護研究会（学術集会）のご案内」として後日郵送いたします。

問い合わせ先：〒514-0116 津市夢が丘1-1-1 三重県立看護大学 柳澤理子

TEL/FAX：059-233-5626

\*海外での活動についても積極的にご報告下さい。

## VI. 海外情報—インド篇5

前 JICA スリランカ看護教育プロジェクト

小林繁郎

### 8. ラクナウの地理・歴史について

首都ニューデリーから南東に410km、ラクナウはU. P. 州のちょうど中央に位置している州都である。ムガル王朝時代後半の1775年ムガル朝の首都デリーの荒廃を逃れた文人たちがこの地へ移り、新興勢力の一地方都市からインドのイスラム文化の中心地として栄えた。

それだけに現在も当時の栄華をうかがわせる巨大な建物と町並み、由緒ある大小の庭園、それに州政府の造った新しい建物とが調和している。しかし、政権はまもなくイギリスの傀儡となって自主性を失い、代々の藩王たちは麻薬と後宮の女性に酔いしれ、現実から逃避していった。1865年からイギリスの直接支配を受ける州都をアラハバードに移され、ラクナウの政治的地位はいっそう低下した。1944年に再び独立インドの北部州の州都とされ、同州はもとより、全インドの政治的動向に大きな影響を及ぼす存在となった。現在の人口は約200万人である。

### 9. きびしい生活環境

斉藤リーダーと私の二人で、人口150万人（当時）の都市の中で日本人は我々二人きりという心細い生活が始まった。我々の宿泊しているゲストハウスはSGPGI内にある2階建てのコンクリート造りの建物で、30人を収容できる施設である。ホテルの部屋と同じようにベッド、トイレ、シャワーがついていた。しかし室内はベッドそばにある2個の電球のみで薄暗く、照明に慣れている日本人には物足りなさを感じる。廊下も照明が弱くて暗く（インド人にとっては子の照明度が普通なのだろうが）、まるで囚人生活（体験したことはないけど）の一步を踏み出したかのような気分になってしまった。このプロジェクトが開始する前にSGPGIを訪問した調査団は「1ヶ月位の任期の場合はなんとか辛抱できるが、それ以上の期間のゲストハウスでの生活は無理を生じるので、スタッフが使用している一戸建てのハウスを要求する必要がある。」と報告している。長期の生活が困難という理由としては色々あるが（次の頁でも述べるが）、設備の不良（クーラーが動かない、シャワーは故障、トイレの水が流れない、等）があげられる。事前の話し合いではリーダーと調整員は1年以上の長期滞在ということでスタッフの使用している一戸建てが提供される取り決めになっていた。しかし我々が現地に到着した当時、我々の入居する予定だった住居はまだ建設中で、やむなくゲストハウスでの仮住まいの生活がその後3ヶ月にも及ぶとは想像できなかった。

(つづく)

## Ⅶ. 皆様へのお願い・お知らせ（事務局より）

1. 会費納入について：第 10 回国際看護研究会に併せて開催された総会で議決されましたように、本年度（1999 年 4 月～）より年会費 2000 円を徴収することになりました。本号の NEWSLETTER に振込用紙「払込取扱票」を同封してありますので、郵便局にて会費を振り込んで下さいますようお願い致します。これまで運営は寄付に頼ってきており、学術集会（第 10 回国際看護研究会）を除いては参加費を徴収してきませんでした。今後の継続的な活動を維持するために財政基盤の確立が必要です。会員の方は国際看護研究会の開催する講演会（学術集会やその他の特別な機会を除く）の参加費は無料となり、NEWSLETTER の購読、ワーキンググループへの参加など、本研究会が主催するあらゆる活動に参加が可能です。ご理解の程をお願い致します。なお、同封いたしました「払込取扱票」には以下の内容をご記入下さい。

払込先：

口座番号：00150-6-121478

加入者名：国際看護研究会

2. 国際看護研究会では、国際看護に関する国内外の情報の収集に努めております。皆様が収集された資料、お書きになった記事、報告書などがお有りでしたら、ぜひ事務局にご寄増頂きたいと思っております。資料は会員が共同利用できるように整理していきますので、よろしくようお願い致します。
3. 最近会員としてご登録された方の中で、例会に参加される方が限られるようになってしまいました。都合上参加しにくいことがあるかと思いますが、同じ分野に関心を持つ者の交流の場ともなりますので、なるべくご参加下さい。また遠方のため参加できないという方は、ぜひ NEWSLETTER へのお便りをお願い致します。
4. 研究会例会で取り上げてほしいテーマや話を聞いてみたいという方がありましたら、ご意見をお寄せ下さい。
5. 国際協力推進協会の学術奨励金を得て行いました「開発途上国から医療協力のために求められてきた看護職に関する研究」の報告書残部があります。会員で希望される方には差し上げますので、270 円分の切手を貼り、宛先を記入した A4 サイズの封筒を事務局までお送り下さい。
6. 本年 4 月より事務局は東京に移転しました。連絡はなるべく、FAX、郵便、または e-mail をお願い致します。お急ぎの場合には e-mail、または TEL/FAX ; 095-849-7946（森）にてご連絡下さい。
7. 会員の方で、住所・所属先に変更がありましたら、事務局まで FAX または 郵便 にて必ずお知らせ下さい。その際には郵便番号・電話/FAX 番号もお忘れのないようお願い致します。また連絡先・NEWSLETTER の郵送先をどちらになさるかもご明示下さい。

.....  
編集後記：

ユーゴスラビア国において、コソボ自治州の住民が難民化しています。私がかつて所属した NGO からも人材派遣がありました。私も何らかの形で役立てればと、ただちに義援金を送りました。現在の社会的な立場から、さっと「現地で活動を」というわけにはいかないので歯がゆさを感じてもあります。難民発生には戦争、災害、飢餓などさまざまな要因がありますが、そのニュースを知るたびに、「自分が現地に赴いたらならば何をすべきか....」と思いを巡らし、関係文献に目を通したりしています。今回は思いが飛躍して、学生時代に講義を受けた「戦時下の看護活動」のテキストやノートを引っ張り出してみました。こっそり模擬演習をしているのを覗き見た家人は私の事を心配しています。コソボの方々にも一日も早く安寧の日が戻ることをお祈りしています。

4 月より異動し、久しぶりに日本の看護教育の現場に戻りました。3 月まで携わっていた医学教育との違いにとまどっています。特に感じているのは、看護教師はあまりにも手とり足とり学生を教えすぎて「考える」機会を奪っているのではないかということです。医学教育に関わっていた時には、学生が放っておかれすぎると不満でしたが、今になると、その良さが見えてきます。外国に出ると日本の良さ・悪さ、日本の看護の良さ・悪さが見えてくるのと同じだと感じています。

本号の発行が予定より大巾に遅れてしまいましたことをお詫び致します。

インドにおける医療協力について連絡をして下っている小林繁郎さんが3月に任期満了で帰国されました。新たな場での活躍をお祈り致します。 (森)

.....  
国際看護研究会事務局／NEWSLETTER 発行元